

鎖状にリンクしてつながる近代日本の戦争		
台湾出兵	1874年	一目的は、琉球王国と中国との歴史的関係（進貢一冊封関係）を断ち切って、沖縄を日本の版図に組み込むと同時に、あわよくば台湾の一部を自国の植民地とすることでした。
江華島事件	1875年	一前年の台湾出兵と同様、隣国への武力進出の意図による試験的出兵。合わせて優秀な軍事力を誇示することにより、翌年、自国の経済進出に有利な不平等条約を締結。
日清戦争	1894—5年	一台湾出兵、江華島事件の経験をベースに壬午（じんご）軍乱、甲申（こうしん）事変を経て、ついに「大国」清国に戦争を挑む。目的は、朝鮮と中国との歴史的関係（進貢一冊封関係）を断ち切り、中国を駆逐しての朝鮮に対する支配権の独占。合わせて、台湾出兵でできなかった台湾の植民地化を果たす。
義和団戦争	1900年	一日清戦争後の下関条約での莫大な賠償金支払いのための欧米列強からの借款がきっかけとなって、中国の半植民地化が一挙にすすむ。それに対する中国民衆の反帝国主義運動の抑制のため出兵した八か国のうち日本は最大の兵力を派兵、アジアの帝国主義国として列強に認知される。
日露戦争	1904—5年	一ロシアが義和団戦争を機に満州に進出、さらに朝鮮へも触手を伸ばし始めたのに対し、義和団戦争での実績に立って結んだ日英同盟をバックに、強国ロシアと戦った。その勝利により、朝鮮に対する独占的支配を完成、合わせて樺太（サハリン）南半部を新領土として、また遼東半島（関東州）と南満州鉄道を確保して満州に進出する。以後、領土（植民地）の拡大が最大の国家目標となる。
第一次世界大戦	1914—18年	一“同盟国”英国からの協力要請を奇貨としてドイツに宣戦、中国・山東半島のドイツの権益をそっくり奪い、さらにドイツ領だったミクロネシア（南洋群島）を実質植民地とする。
シベリア出兵	1918—22年	ロシア革命により成立したソビエト政権に武力干渉、その倒壊をねらって、英、仏、米の資本主義列強とともに出兵、あわせて北満州からシベリア、沿海州の獲得を画策する。
満州事変	1931年	一これまで日露戦争で得た関東州と満鉄沿線に限定されていた関東軍の駐留権をいっきよに拡大、満州全土を軍事制圧するため、謀略事件を引き起こして中国軍を攻撃、駆逐する。
日中全面戦争	1937—45年	一満州の植民地化に続いて中国全土を支配下におさめるため、盧溝橋事件をきっかけに全面戦争へと突入していった。夜間演習していた日本軍への中国軍陣地からの発砲事件については偶発性が高いと思われるが、その前年、日本軍は義和団戦争で得ていた公使館警護のための駐兵権の解釈を一方的に拡大、駐留する兵力をいつでも戦闘態勢に入れる旅団規模へと増強していた。
太平洋戦争	1941—45年	一その中国との全面戦争が行きづまり、泥沼化したため、ヨーロッパ戦線でのドイツの電撃的勝利に便乗して米国を「敵」と名指しする日・独・伊三国同盟を締結、戦略資源である石油、ゴム、鉄鉱石などの確保をめざして東南アジアに侵攻、中国に加え、米、英との戦争に突入した一。

これだけは知っておきたい近代日本の戦争 台湾出兵から太平洋戦争まで

梅田正己著 高文研